

次期 SIP（SIP 第 3 期）課題候補に係る事前評価

令和 5 年 1 月 26 日

ガバニングボード

1. 事前評価に係る経緯及び今後の予定

次期 SIP 課題候補について、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画に基づき、将来像（Society 5.0）からバックキャストにより検討し、令和 3 年末に 15 の課題候補を選定した。

令和 4 年 1 ～ 2 月に、各課題候補について、産学官の幅広い関係者から、研究開発テーマのアイデア募集（RFI: Request For Information）したところ、1,000 件近い応募があった。

令和 4 年度は、公募で選定されたプログラムディレクター（PD）候補を座長とし、関係府省、研究推進法人等で構成される検討タスクフォースで、RFI の結果を参考として、事業化調査（FS: Feasibility Study）を実施し、インパクトが大きいテーマに絞り込みを進めてきた。

FS の結果について、令和 4 年 12 月 15 日から 23 日までの間に、参考資料 1 の基本的考え方及び検討フローに基づき、ガバニングボードメンバー（課題候補ごとに 3 名以上が参加）と各 PD 候補との集中討議を実施した。

集中討議終了後、ガバニングボードメンバーより、参考資料 2 の事前評価シートに基づき、集中討議を踏まえた評価意見が提出された。

集中討議の結果に基づき、12 月 27 日に、参考資料 3 のとおり、内閣府事務局より各 PD 候補等に対し検討状況を報告し、課題の成立性と予算配分の見通しを通知するとともに、課題の成立にあたって検討事項について十分な検討を行うよう依頼した。

一部の課題候補については再討議が必要とされたため、本年 1 月 12 日と 13 日に再討議を実施した。

今般、集中討議・再討議の結果、検討事項について検討状況を踏まえ、2. のとおり、事前評価の結果をとりまとめた。

また、事前評価の結果に基づき、課題を決定するとともに、その「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画（戦略及び計画）」案を作成した。

今後、2 月に戦略及び計画案のパブコメとともに、改めて PD の公募を実施し、3 月にその戦略及び計画と PD を最終決定する予定である。

2. 事前評価の結果

事前評価は評価基準に基づき、戦略及び計画案の総合評価の観点、予算要求額の妥当性評価の観点からそれぞれ実施した。

(1) 評価基準

(戦略及び計画案の総合評価)

- S：非常に優れている
- A：優れている
- B：要件を満たしている
- C：要件を満たしていない

(予算要求額の妥当性評価)

- S：要求額のとおり認められる
- A：概ね要求額のとおり認められる
- B：要求額について精査が必要である
- C：要求額の一部のみ認められる
- D：認められない

(2) 各課題候補の評価と予算配分

課題候補名	戦略及び計画 案の総合評価	予算要求額 の妥当性評価
1. 豊かな食が提供される持続可能なフード チェーンの構築	B	A
2. 統合型ヘルスケアシステムの構築	B	A
3. 包摂的コミュニティプラットフォームの構築	A	B
4. ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現 するプラットフォームの構築	B	B
5. 海洋安全保障プラットフォームの構築	A	A
6. スマートエネルギーマネジメントシステムの 構築	A	A
7. サークュラーエコノミーシステムの構築	A	B
8. スマート防災ネットワークの構築	A	A
9. スマートインフラマネジメントシステムの構築	B	A
10. スマートモビリティプラットフォームの構築	A	B
11. 人協調型ロボティクスの拡大に向けた 基盤技術・ルールの整備	A	B
12. バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤 技術・ルールの整備	B	A
13. 先進的量子技術基盤の社会課題への 応用促進	A	A
14. AI・データの安全・安心 秘密計算 な利活用のための基盤技術・ AI 保護 ルールの整備 InP	B 他のプログラム で検討	B
15. マテリアルプロセスイノベーション基盤技術 の整備	A	B

(3) 予算配分の扱い

【調整中の予算に係る内容を含むため非公表】

(4) 各課題候補に係る個別評価意見
別添のとおり。

3. 事前評価に基づく今後の対応

2. (4) の個別評価意見について、残りの FS 期間及び執行準備に当たって、さらなる具体化を進めていただきたい。

4 月末ごろ（予定）に、個別評価意見の具体化の状況、公募等の執行準備など執行状況を調査し、追加配分の要望を受け付ける予定である。追加配分は各課題のミッション実現に向けて不可欠な研究開発テーマであるが、当初の配分額では十分ではなく、効果的な実施に向けて追加配分が必要なものを優先することとする。

その後、各研究開発テーマについて、公募等の結果を受けて、具体的な実施体制、工程表、予算配分等を具体化していただく。

夏ごろに、研究開発テーマの具体化の状況について、プログラム統括チームによるヒアリング、必要に応じてガバニングボードでの報告を実施する予定である。

年度末評価のスケジュールや実施方法については、別途、内閣府事務局より連絡することとする。

4. その他

関連分野の技術や市場の動向調査、採用されなかったテーマも含め技術実現性等の調査など FS の結果は来年度からの本事業の実施にあたって貴重な情報であり、FS の契約終了までに FS の成果物として整理し、本事業の PD や内閣府課題担当ほか関係者にしっかり引き継いでいただきたい。

(別添)

各課題候補に係る個別評価意見

1. 豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築

- テーマ構成の妥当性について説明いただいているが、FS 期間内にインパクトの定量分析を行い、エビデンスの整理を行うこと。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ 5つのサブ課題の連携をロードマップ、アクションアイテム等で丁寧に記述すること。
 - ✓ 大豆を例題として、生産者観点で、他作物も含めてスマート栽培技術をトータルで活用できるよう仕組みを考えること。また、付加価値の付け方も含めて検討すること。
 - ✓ 東南アジアでの標準化戦略を今後検討すること。
 - ✓ 研究開発テーマ D1、D2 はそれぞれヘルスケア、包摂性との連携を検討すること。
 - ✓ サブ課題 E は未利用廃棄物や農家の付加価値も含めて検討すること。

2. 統合型ヘルスケアシステムの構築

- 社会実装に向けた道筋について、いつどのように社会実装を目指すのか、どのように産業界、スタートアップとの関係を構築し、プロジェクトのゴールに導くのか、具体的なタイムフレームを示していただいたところ、今後、タイムフレームに従って、具体的な活動を進めること。

3. 包摂的コミュニティプラットフォームの構築

- 社会実装に向けた目標は示していただいているが、具体的な社会実装の形を明らかにするため、予算執行までに、Well-being の向上に係る計測量（包摂性の指標）、代表的手法、ユースケース、想定される実証フィールドを整理すること。
- SIP は個社の支援ではなく、ベンダーロックインにならないよう留意し、予算執行までに、協調領域の取組の具体化を検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ サブ課題 A について、地域での人的関係も踏まえた取組とすること。また、多様な地域への展開を見据えた取組とすること。

- ✓ サブ課題 B などについて、SIP 後に、どのような機関がどのような仕組みで実装していくのかを明確にすること。
- ✓ サブ課題 D については、見守るだけでなく、社会参加を後押しする仕組みを検討すること。

4. ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築

- 全体的に、戦略及び計画案のアウトプットがアウトカムにどの程度の効果があるか予見が難しいところ、予算執行までに、検討事項に挙げられた以下の点について引き続き具体化を検討すること。必要に応じて、具体化の状況について、プログラム統括チームによるフォローアップを行い、予算執行に向けた対応について協議を行う。
- ✓ 目指している社会実装の形を具体的に示し、SIP の期間中にどこまで達成するのか具体的な目標を明確にすること。
- ✓ 社会実装に向けた関係省庁や産業界と連携の仕方も明確にすること。
- ✓ 取組に対するアウトプット指標、アウトカム指標を明確にすること。
- ✓ リスキリングは産業構造変革や人生 100 年時代で重要な課題だが、新しい学び方が働き方・リスキリングにどうつながるか明確にすること。
- ✓ ポストコロナ時代とあるが、オンライン活用以外に何が新しいのかを明確にすること。
- ✓ 本課題候補でのプラットフォームはデータのプラットフォームではないと思われるが、プラットフォームが何を示すのか明確にすること。
- ✓ 教育 ICT の世界市場の拡大の中で、BRL の視点での取組を進めること。
- ✓ モデル地域での実証を横展開するための仕組みを検討すること。
- ✓ 総合知的な人材が求められているが、博士人材も含む人材育成・活用について検討すること。
- ✓ 学校教育に限らない、幅広い視点からの人材育成を検討すること。

5. 海洋安全保障プラットフォームの構築

- 350t/d の一次精錬を優先し、引き続き取組を推進すること。
- 精錬や CCS のサプライチェーンにおける SIP の活動の潜在的インパクトについて FS 期間中に定量的なインパクトも含めエビデンスを整理すること。
- 複数 AUV に関して、国民の理解が得られるよう、定量目標、社会へのインパクトにつ

いて、FS 期間内に具体的なエビデンスを整理すること。

- AUV に関しては、K プロとの関係を整理していただいたが、予算執行に当たっても、AUV に関する SIP の対象範囲や役割分担を踏まえ、重複がなく効率的に実施すること。
- 研究推進法人である JAMSTEC が自ら研究開発責任者を担当することとしているサブ課題については、戦略及び計画に自ら担当することが不可欠な理由を明記するとともに、実施に当たっては透明性を確保した上で、外部の有識者を含む適切な体制を構築すること。

6. スマートエネルギーマネジメントシステムの構築

- FS 期間中に将来の姿に対するトランジションとしてこの活動内容が妥当であることを分かりやすく対外的に説明できるようにすること。
- 特にサブ課題 B、C の KPI で、例えば「特定産業分野の CO2 削減 XX%となるロードマップを作成」というミッションに近い記述になっているため、予算執行までに、SIP 活動の直接的な KPI を検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ EMS ソフトの共用化（共用部と非共用部やインターフェースなど）を検討すること。運用時のコストも低減化するよう検討すること。
 - ✓ EMS が個人、事業者の行動変容にどのように影響を与えられるか、ファイナンスなどの仕組みを検討すること。
- B2②（e-fuel モビリティシステム）は基本概念の成立性、実装の実現可能性を早期に評価すること。

7. サーキュラーエコノミーシステムの構築

- サブ課題の目標が定性的であるため、予算執行までに、達成すべき KPI を定量的、具体的に検討すること。
- ビジネスモデルについて、予算執行までに、具体的に顧客は誰を想定するか、その想定顧客の課題、市場規模、顧客に何を提供するか、提供物の価値基準、その価値の他社に対する優位性、ターゲットコスト、チーミング等、を代表的なものから検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。

- ✓ エグジット後の DPP の運用体制、システム全体の要件を、社会実装の実現性を踏まえて今後検討すること。
- ✓ 行動変容に関して包摂性等の他課題候補との連携を検討すること。
- ✓ “MVP”は試行錯誤的に顧客学習するために、何度も改良しやすくするための簡易な提供品を意味する用語であることを念頭に、アジャイルに活動すること。

8. スマート防災ネットワークの構築

- FS 期間中に、FS の結果と、サブ課題やテーマの選定理由へ FS の結果をどのように反映したかを整理しておくこと。
- サブ課題の目標が定性的であるため、予算執行までに、達成すべき KPI を定量的、具体的に検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ デジタルツイン構築をもう少し詳細に記述すること。
 - ✓ 治水の管理主体の違いを超えて情報共有だけでなくアクションの協調も目指すこと。

9. スマートインフラマネジメントシステムの構築

- サブ課題の目標が定性的であるため、予算執行までに、達成すべき KPI を定量的、具体的に検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ エグジット後のデジタルツインの運営主体、方法、資金を検討すること。
 - ✓ 新技術だけでなく既存技術の活用も含めて構築すること。
 - ✓ 技術だけでなく、社会への適用性（自治体への受容性）を更に重要視すること。
 - ✓ サブテーマ E を具体的に記述すること。他サブテーマ、または他課題の連携なども含めること。
 - ✓ サブテーマ D においては、防災との連携を推進すること。
 - ✓ フィジビリティスタディの結果として、欧米の状況、ベンチマークを盛り込み、その上で日本の状況を勘案して、サブ課題やテーマの選定理由がわかるように戦略及び計画案等の資料に記述すること。

10. スマートモビリティプラットフォームの構築

- サブ課題の目標が定性的であるため、予算執行までに、達成すべき KPI を定量的、具体的に検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ 都市空間について国交省などの各種データベースが存在しているが、性質に応じて連携して使えるように検討を進めること。
 - ✓ データベースなどについては、次期 SIP 他の課題候補と連携し、相互に活用できるように検討を行うこと。
 - ✓ 国内に閉じずに、グローバルな観点から国際連携で進めること。
 - ✓ 経産省・国交省など既存の自動運転・MaaS・スマートシティ関連プロジェクトとの役割分担や連携について検討すること。
 - ✓ 自治体と連携し特区等を活用して、小規模な検証を行った後でスケールするアプローチを検討すること。

1 1. 人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備

- ユースケースの検討も含め、引き続き経産省・NEDO その他の関係省庁・機関との議論を密にし連携を更に進めること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ 社会実装のプロセスの中で官民の連携の仕方を具体的に検討すること。
 - ✓ 技術やサービスを利用する人への受容性に対する検討を更に行うこと。対象とする人の種類（障がい者や介護者等）を絞ることも検討すること。
 - ✓ データの所有権や管理等の取り扱いやデータ連携に関して検討すること

1 2. バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備

- バーチャルエコノミーは新たな市場の開拓を目的としており、アウトカムを市場規模としているが、ユースケースの達成レベルがわかるように、予算執行までに、生産性などの指標を使い具体的定量的な目標を検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
 - ✓ バーチャルエコノミーの制度・ルールの整備については SIP での取組だけでは限界があり、関係省庁や産業界で様々な動きがあるが、それらと連携してどのように取り

組むのか明確にすること。

- ✓ バーチャルエコノミーが一部のエコノミーにとどまらず、クリティカルマスを越えてスケールするようにどう取り組むのか明確にすること。
 - ✓ スタートアップの参画機会を明確にすること。
 - ✓ バーチャルエコノミーが持つ ELSI などの負の側面を意識し、解決方法が設計できれば大きな価値であり、そのような観点での検討を進めること。
- BRIDGE において SIP 等の成果を活用したスタートアップの事業創出について重点課題が設定される方向であるところ、スタートアップ支援については BRIDGE の活用についても検討すること。

1 3．先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進

- 予算執行までに、テストベッドのイメージ、規模や概略仕様のさらなる具体化を検討すること。
- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の結果に基づき、今後の取組を具体化すること。
- ✓ ユースケース開拓の際、サブ課題によって企業の参画の状況に濃淡が出る可能性があるため、状況に合わせて企業とよく議論すること（特に量子センシング）。
 - ✓ 量子センシングの応用分野は幅が広いが、様々な分野の有識者と議論して諸外国に負けないようキャッチアップすること。
 - ✓ マッチングファンドに関して、初期で技術の可能性を見出して、後期で企業がマッチングファンド方式をコミットしやすいように取り組むこと。
 - ✓ QSTAR、QLEAP などと、SIP が主体となって連動することを期待する。
 - ✓ 量子コンピューティング、量子センサの成果の質を保証する仕組みや基準化・標準化を推進すること。
 - ✓ イノベーションエコシステムの創出をテストベッド・ユース開拓と一体化して検討すること。
- BRIDGE において SIP 等の成果を活用したスタートアップの事業創出について重点課題が設定される方向であるところ、スタートアップ支援については BRIDGE の活用についても検討すること。

1 5．マテリアルプロセスイノベーション基盤技術の整備

- 以下の検討事項について検討を進めていただいているところ、予算執行までに、検討の

結果に基づき、今後の取組を具体化すること。

- ✓ アカデミアの活動が、補助金ありきにならないように、営利につながるように、マネジメントすること。
- ✓ 真に使えるプラットフォーム、特に用途特化型モジュールの仕組みや構造を検討すること。
- ✓ 秘密計算の連携のための共通化（方法やルール）を意識して検討すること。
- BRIDGE において SIP 等の成果を活用したスタートアップの事業創出について重点課題が設定される方向であるところ、スタートアップ支援については BRIDGE の活用についても検討すること。

次期 SIP の課題決定及び予算配分に向けた基本的考え方と検討フロー

次期SIPの課題決定及び予算配分に向けた基本的考え方

各課題候補について、各PD候補を座長として検討タスクフォースを設置し、RFIで情報提供があった研究開発テーマのアイデアを参考としつつ、フィージビリティスタディが進められており、年末までに、技術・事業の両面からインパクトが大きいテーマに絞り込み、「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画（案）」及び「研究開発テーマ候補リスト（ロングリスト）」が作成される予定である。

ガバニングボードでは、年末以降、各検討タスクフォースから提出された「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画（案）」等について事前評価を行い、パブリックコメントを経て、課題決定及び予算配分を行う予定である。

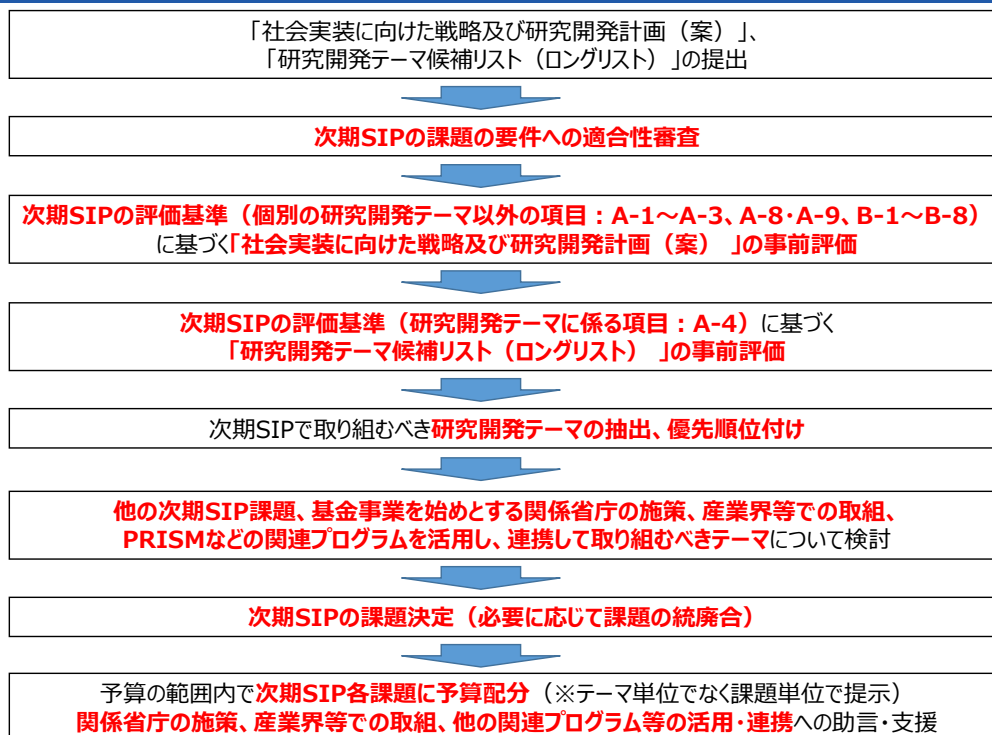
「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画（案）」等の作成及び事前評価を円滑に進めるため、あらかじめ、ガバニングボードにおける次期SIPの課題決定及び予算配分に向けた基本的考え方や検討方針を示すこととする。

<次期SIPの課題決定及び予算配分に向けた基本的考え方>

- 次期SIPの各課題候補は、ガバニングボードにおいて、我が国が目指す将来像（Society 5.0）からバックキャストにより検討を行い、ターゲットとする領域として設定したものである。
- いずれの課題候補も重要であり、**ガバニングボードでの事前評価は査定ではなく、各課題候補で目指す将来像を如何に実現するかといった観点から検討を行う。**
- 一方、各課題候補で目指す将来像は、**SIPの限られた予算や実施体制の中だけで実現できるものではなく、他の次期SIP課題や、基金事業を始めとする関係省庁の施策、産業界等での取組、PRISMなどの関連プログラムとも連携しながら、取り組む必要がある。**
- 従って、ガバニングボードの事前評価では、**次期SIPの要件や評価基準、予算額を踏まえ、次期SIPで取り組むべき研究開発テーマの抽出や優先順位付けを行うとともに、他の次期SIP課題や、関係省庁の施策、産業界等での取組、関連プログラムを活用し、連携して取り組むべきテーマについて助言・支援を行うこととする。**

1

次期SIPの課題決定及び予算配分に向けた検討フロー



2

(参考資料 2)

次期 SIP 課題候補の事前評価シート

次期SIP課題候補の事前評価シート				
課題候補名称：				
評価者：				
評価項目	評価内容	評価基準	評価入力	評価者コメント
SIP要件	要件（別紙）を満たしているか	○ or ×		
A-1 意義の重 要性、SIP 制度との ミッショ ンとの明確 化	・課題全体を俯瞰的にとらえ、Society5.0の実現に向けて将来像を描いているか。 ・技術開発のみならずルール整備やシステム構築などに必要な戦略が検討され、SIP制度との整合性が図られているか。 ・将来像の実現に向けたミッションが明確となっているか。 ・関係省庁を巻き込んだ協力体制の下に、課題の解決方法が特定され、ミッション遂行が実現可能なものであるか。			
A-2	・ミッションを達成するために、現状と課題を調査し、ロジックツリー等を活用し、社会実装に向けて、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む5つの視点で、必要な取組を抽出されているか。 ・抽出した取組について、既存の産学官での取組を把握した上で、SIPの要件及び本評価基準を踏まえ、SIPの研究開発テーマを特定しているか。 ・SIP終了時の達成目標が設定されており、実現可能なものであるか			
A-3	・SIPの研究開発テーマを含む必要な取組について、社会実装に向けたロードマップを作成し、技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材を含む5つの視点で、戦略的でかつ明確になっているか。また、これら5つの視点の成熟度レベルを活用しながら、指標が計測量として用いられ、進捗度が可視化されているか。 ・データプラットフォームの標準化戦略を見据え、全体のデータアーキテクチャーを見据えたデータ戦略は設定されているか。 ・スタートアップに関する戦略は設定されているか。			
A-4	・RFIの内容を吟味し、個別の研究開発テーマの設定が決め打ちではなく、社会課題を基に一定の範囲から絞り込まれているか。 ・個別の研究開発テーマの設定は国際競争力調査や、市場・ニーズ調査、有識者や関係者へのヒアリングなど、エビデンスベースでの理由で裏打ちされているか。 ・個別の研究開発テーマの目標及び工程表は明確であり、実現可能なものであるか。 ・個別の研究開発テーマの目標は課題全体の目標(A-3)を満足しているか。			
A-5	・課題の意義や成果に関して効果的な対外的発信の計画が検討され、実施されているか。 ・国際的な情報発信や連携の取組の進捗はあるか。	S：非常に優れている A：優れている		
A-6	Aの各評価より課題目標の達成度と社会実装面の全体評価を入力 ※A-1～A-4を最重要項目として評価ください	B：満たしている C：満たしていない		
B-1	・PD、SPD、研究推進法人の役割分担と、それに見合う配置が図られているか。 ・メンバーの配置や役割分担について明確に構造化が図られているか。知財・国際標準・規制改革に関する専門家や、社会実装に関する業務の担当者等が配置されているか。 ・研究開発テーマ設定時の前提条件の変更や研究成果の達成状況に応じて、研究開発テーマの方向性の再検討やアジャイルな修正が生じた際に、関係者間で合意形成を図る流れが明確になっているか。 ・消費者視点での社会的受容性の観点や多様な観点から運営を推進するため、SPDや研究開発テーマ責任者等に若手や女性などダイバーシティを考慮したチーム構成計画としているか。			
B-2	・関係府省の担当者を巻き込み、各府省の協力・分担が明確な体制になっているか。 ・各府省等で実施している関連性の高い研究開発プロジェクトとの連携が図られているか。 ・関係省庁の事業との関係性をマッピングするなどの整理がなされ、重複が無いようSIP以外の事業との区分けは出来ているか。			
B-3	・社会実装に向けた産業界の意欲・貢献を促すべく、産学官連携が機能する体制が構築されているか。研究成果の利用者は明確となっているか。 ・マッチングファンド方式の適用に向けた検討がされているか。 ・本来、民間企業で行うべきものに国費を投じていないか。 ・マネジメント体制の中にスタートアップ関係者が配置されているか。			
B-4	・研究開発テーマ間での連携やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に研究開発テーマ間の連携に必要な担当者が配置されているか。			
B-5	・他のSIP課題間での連携やシナジー効果について検討され、実施されているか。マネジメント体制の中に他のSIP課題間の連携を担当する者が配置されているか。			
B-6	・研究開発テーマ間や、他のSIP課題間でのデータ連携が検討・実施されているか。 ・既存のデータプラットフォームとの連携の可能性は検討されているか。			
B-7	Bの各評価より課題マネジメント・協力連携体制面の全体評価を入力			
総合評価	上記の各評価より総合的な評価を入力 ※Aを重視して評価ください			
予算要求額の 妥当性評価	上記の評価とロングリストで挙げられた研究開発テーマの妥当性・優先順位より、要求額を評価する。 S：要求額のとおり認められる（全額程度）、A：概ね要求額のとおり認められる、B：要求額について精査が必要である（半額程度）、C：要求額の一部のみ認められる、D：認められない（他の事業等で実施すべき）			
次期SIPの課題の要件				
①Society5.0の実現を目指すものであること				
②社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な分野であること				
③基礎研究から社会実装までを見据えた一貫通貫の研究開発を推進するものであること				
④府省連携が不可欠な分野横断的な取組であって、関係府省の事業との重複がなく、連携体制が構築され、各府省所管分野の関係者と協力して推進するものであること				
⑤技術だけでなく、事業、制度、社会的受容性、人材に必要な視点から社会実装に向けた戦略を有していること				
⑥社会実装に向けた戦略において、ステージゲート（2～3年目でのテーマ設定の見直し）・エグジット戦略（SIP終了後の推進体制）が明確であること				
⑦オープン・クローズ戦略を踏まえて知財戦略、国際標準戦略、データ戦略、規制改革等の手段が明確になっていること				
⑧産学官連携体制が構築され、マッチングファンドなどの民間企業等の積極的な貢献が得られ、研究開発の成果を参加企業が実用化・事業化につなげる仕組みを有していること				
⑨スタートアップの参画に積極的に取り組むものであること				

(参考資料 3)

次期 SIP 課題候補に係る集中討議を踏まえた検討状況報告

令和 4 年 12 月 27 日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

SIP 総括担当

【調整中の予算に係る内容を含むため非公表】